

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100314		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム寿楽(寿ホーム)		
所在地	上川郡当麻町4条西2丁目1番10号		
自己評価作成日	令和 4年 8月 20日	評価結果市町村受理日	令和 4年 11月 22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173100314-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173100314-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年9月29日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が、のびのびと暮らして頂けるように、一人一人に合わせた生活のリズムや環境作りをさせて頂き、共に暮らす中で交流を多く持ち楽しみのある生活を送って頂けるよう支援させて頂いております。周りの景色や、畑の収穫などから季節を感じて頂き、慣れ親しんだ行事を大切に生活して頂けるよう努めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は大雪山連峰を望み、田や畑に囲まれた市街地に位置し、旭川市内からも近く、役場や消防署、体育館等が徒歩圏内にある恵まれた環境にある。向かいにはコンビニエンスストアがあり、広い駐車場は災害時の避難場所になっている。法人施設のオレンジカフェが車で5～6分の町内にあり、災害時の物資備蓄や自家発電も備えており、宿泊もでき避難施設の役割を持っている。コロナ禍の為、地域との交流も自粛しているが、近隣より手打ちそばを頂いたり幼稚園との交流もあるなど、限定的ではあるが交流している。事業所理念に「のびのび・ここにこ・楽しく・・・」と「介護20カ条」を掲げながら日々のケアの実践に繋げ、地域を支える事業所として活動に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りに理念を唱和します。住み慣れた地域で過ごして頂けるよう支援させて頂き、共有して実践に繋がっています。	理念は来訪者など誰でも目にできる入口に掲示し、介護20か条も掲げている。理念をミーティングで唱和し、全員で共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園と定期的な交流があります。その他の交流はコロナ禍で困難な状況となっています。	コロナ禍で地域との交流は自粛しているが、中学校ボランティアのコンサートも中止している。ただ、現在も当麻町研究会より手打ちそばが届くなど、地域との繋がりをもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等を通し地域の方に認知症への理解を深めて頂いておりますが、現状としてはコロナ禍のため関わりが出来ていません。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い町包括センターや民生委員、家族の方から声を聞かせて頂きサービスの向上に活かさせて頂いております。	運営推進会議は2か月に1回開催している。会議内容は家族会へ報告して運営サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常日頃から町の担当者と相談連絡をとり連携しています。実情やサービスの取り組みを会議を通し伝えていきます。	町の担当課とは連絡を密にとり、事業所の運営状況や空き状況の報告や、感染症予防対策の指導を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず一人一人に合った支援を提供出来るよう努めています。定期的に身体拘束廃止委員会を開き全体ミーティングで内容を周知しています。	2ヶ月に1回開催している身体拘束廃止委員会の内容を基に、全体会議等でスピーチロックなど実際のケア場面で、どのように対処すべきか話し、理解して行動できるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内部研修を通し学ぶ機会を持ち理解を深めています。ケアする中で虐待に繋がることのないよう努めています。			

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もおられるため活用し生活して頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の疑問希望をお聞きし、理解・納得され不安なく利用して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族の意見、要望をお聞きし介護員での話し合いを行い、意見を取り入れながら運営に活かしています。	利用者は日々生活の中から、家族等からはコロナ禍のため電話で要望を聞き、得られた意見や要望は会議等で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の面談を行い、状況の把握を行い職場環境等の整備に活かしています。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、朝礼や会議時に話を聴くように努めている。10月～2月の間に年1回行われる職員面接時に、職員からの意見を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事前に勤務希望を聞き勤務表に反映させることで働きやすい環境が整うよう対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中でも可能な外部研修への参加を行い、内部研修での勉強会を行い介護知識の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可能な研修等に参加する中でネットワークを作り、周りの情報を得ながら努めています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の開始時本人が困っている事不安なこと要望等を聞き取り、本人が安心して入所して頂けるよう関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること不安・要望をお聞きし不安なく利用して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を聞き取り、必要とする支援・サービスが行えるよう対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼し支え合い暮らしを共にする同士と思って頂けるよう関係作りを行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切に、ご家族の協力を得ながら共にご本人を支えていけるよう関係作りを行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や友達が気軽に面会出来るよう、柔軟な対応を行っていますが、コロナ禍のため現在は制限させて頂いております。	現在はコロナ禍で面会や外出支援を自粛しているため、利用者の希望に合わせて電話で馴染みの関係が継続できるよう取り組んでいる。訪問理美容は2か月に1回実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで交流が出来る時間を作り(体操・レク)一緒に楽しみ支え合えるような関係作りを支援しています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も利用者様との関係を大切に、ご家族の相談事等の支援をさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重し常によりよい生活を重視し、困難なことはご家族とも相談しながら本人本意に対応しています。	日々の関わりの中、本人の希望を聞き声掛けをして把握するようにしている、又家族からの話しも参考にし、職員間で情報の共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を把握し、より良い生活環境が作れるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの状況を把握し、健康状況等を常に把握するよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に合った介護計画を作成し、本人・家族と連携した介護支援に努めています。	利用者の意向や身体状況・家族の要望をもとに、職員の意見を取り入れ、介護計画を3ヶ月毎に作成し家族の承認を得ている。身体状況の変化やモニタリング結果をもとに、見直しを行い新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を反映し経過報告・モニタリングを行い介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた介護支援とサービス、柔軟な対応を支援させて頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との関係を保ち気軽に声掛けして頂きながら、安全な生活の支援をさせて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を常に行い利用者の健康状態の把握に努め、一人一人にあった対応を受けて頂いております。	利用者・家族の希望に添ってかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。職員が同行し、結果を家族に報告している。	

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気づいたこと等介護員同士相談し、利用者が適切な受診を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換や現状の把握を行い安心して治療を受けられ、早期退院が出来るよう家族・病院との関係作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したり終末期のあり方については事業所で出来ることを説明し、ご家族の希望要望を聞きながら医療機関との連携を行っています。	入居時に利用者及び家族には終末期の対応について説明し、同意を得ている。重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	重度化や終末期については医療機関と連携しているが、土日や祭日でも利用者と家族が安心できるようなターミナルケアの支援体制が構築できるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防職員の指導のもと救命救急の講習を受け、緊急時の対応が適切に行えるよう努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防職員の指導のもと避難訓練を行い、緊急時に対応出来るよう努めています。	年2回夜間想定をした避難訓練を消防署の協力を得ながら実施し、近隣住民の協力と隣接のセブンイレブンの駐車場を避難場として行っている。又、停電時の災害対策は町内の建築業者と協力体制をとっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人尊重し思いやりのある声掛けや介護を行っています。	尊厳について職員間で話し合う機会を設けて、一人一人の誇りやプライバシーを損ねる言葉かけがないような日々のケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望に応じて自己決定して頂けるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしその方の希望に沿って過ごして頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて本人の希望を聞きながら支援しています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫、下ごしらえを共に行う事で会話も増え楽しい食事が出るよう支援しています。	利用者の能力に応じて、職員と一緒に準備や、後片付けを行っている。行事食や出前食を取り入れながら食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体の状況を確認しバランスを考えながら提供しています。水分の工夫を行いながら十分に摂取して頂けるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアして頂き、ご本人に合わせ介護を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄となるよう支援しています。	排泄記録表によるパターンを把握して、仕草や動作を見ながらタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給、適度な運動の取り入れを行い、排泄間隔の把握を行いながら支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を確認し希望に応じ気持ちよくゆっくりと入浴出来るよう支援しています。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。利用者によっては2人介助で入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の確認をしながら休息したり居室で休んで頂いたり、状況にあった支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている内容や用法を理解し体調の見守りを行いながら支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や出来ることを活かし、その人に合った役割や楽しみ事が出来るよう支援しています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中でも感染に注意し花見に出かけたり、ドライブ等に出かけ楽しく過ごして頂けるよう支援させて頂いております。	コロナ禍の中でも感染に注意し、事業所の前の広場で利用者は日光浴や散歩したり、少人数でのドライブに出かけたり、花見の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話に楽しそうにお話されています。お友達とお手紙の交流もされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような飾り付けをしたり、くつろげる場所でテレビを観たりお話をされたり、調理しているところが見えたりと生活を感じて頂けるよう支援しています。	共用空間は、温度や湿度に配慮し、定期的な換気や床やテーブルなどの消毒を行って、利用者が過ごしやすい環境づくりに努めている。壁には利用者と職員が一緒に作った季節感ある飾り付けなどが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で皆さんでお話しをされたり、作品作りを楽しみながら過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と相談され使い慣れたものを置き、写真を飾られたり思い思いに飾られています。	居室には洗面台、ベッド、カーテン、クローゼットが備えられている。使い慣れた家具や日用品等が持ち込まれたり、写真が飾られて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなど安全に過ごして頂けるよう支援させて頂いております。		